



■ビオトープ・サロン 学校ビオトープはマルチ教材

徳島県ビオトープアドバイザー初登板！ 稲飯さんからの体験記です。

(編集局)

【新米ビオトープアドバイザーの一言】

記者：稲飯幸代(会員)

「徳島県ビオトープアドバイザー制度」とは、依頼主は環境学習やビオトープづくりの助言を専門家から無償で受けられる、まさに利用する側にとっては、良いことずくめの制度です。小学校などで、子供たちに自然と親しむことを教えていきたいと思っても、どうしていいのかわからない方々も少なくないのではないかと思います。このような制度をぜひ利用して子供たちが自然に親しむ機会を作って頂きたいと思います。

2月28日、ある小学校のビオトープ池の維持と管理を兼ねた児童への自然環境学習が行われました。今年で8回目のビオトープアドバイザー派遣です。

対象は、小学1・2年児童57人と担任も含めた先生4人の総勢61人。ねらいは、「季節によって生きものの暮らし方が変化することを感じてもらうこと」「自然に適応しながら生き物が暮らす仕組みに気づいてもらうこと」の二つです。その時の活動プログラムを少し紹介したいと思います。



【準備】(30分) ————— 9:00~9:30

- ・支援者が事前に活動場所の現状を把握し、活動内容への反映を検討する。
- ・担任教師と支援者(助言者、協力者)により、進行と役割分担を確認する。

【活動】(150分)

I. 導入(20分) ————— 9:30~9:50

- ・春夏秋冬にはどんな生きものがいたか。
- ・では、今はどうか?どこにどんな生きものがいるかみんなで探してみよう!

II. 展開(100分) ————— 9:50~11:30

1. 生きものはどこにいるのかな?
 ・見つけた生きものが、どこにどんな様子でいたのかをみんなに知ってもらおう。
2. エコアップ作戦。
 ・生きものが暮らしやすくするためには、何が必要か、どうすればいいのかを考え、実行してみよう。
3. 片付けをしよう。
 ・使った道具はきれいに洗って、手もきれいに洗おう。

III. まとめ・ふりかえり(30分) ——— 11:30~12:00

- ・生きものをよ〜く観察しよう。
- ・生きものの疑問や不思議だと思うことをビオトープアドバイザーに質問してみよう。
- ・ヤゴなどの水生生きもの、カマキリの卵鞘、土の中の生きものに分かれて、順番に観察してみよう。



管理士会が支援をはじめから7年、9回目の活動となり、3回目からビオトープアドバイザーとして派遣されています。管理士会のメンバー協力の下、特定の学年と教科で、学年引き継ぎの恒例活動となっています。学校ビオトープ本来の狙いにあるように、「1年生から6年生まで全校で取組み、発達段階に応じて様々な教育・教科の学習に活用し、まちづくりへとつなげる。」と願いつつ支援ですが、実現させるには力が及ばないことを痛感しています。

一方、主役はあくまでも地域や学校です。ビオトープアドバイザーはお手伝いに過ぎません。学校を取り巻く社会的な現状を鑑みれば、難しい一面もあります。子ども達が社会人として成長するために本当に大切なこと、必要なことは何なのかを考えてみる…そのような機会をもってみるのはいかがでしょうか。

子供たちは本来、虫好き、自然好きと信じる私にとって、初のビオトープ支援活動は、少々難しい課題を提示された経験となりました。ビオトープ活動が行われている小学校はきわめて少なく、7年間続いている…このこと自体がすごいことだと思います。もっともっと、この制度を活用してほしいと思います。

これからも学校生活で活用していただき、子供たちにはやさしく、たくましく育ててほしいと願います。ビオトープ池を整備している時の、子供たちの生き生きとした表情や言葉が忘れられません。いい機会を与えてくださり、ありがとうございました。

NACSJが各月に発行する「自然保護」の今月号の特集に「子供にとって、自然にふれるという体験は、水や土、緑に触れたり、小さな昆虫の命に自分の命を重ねたりして、「内なる自然」を豊かにすることでもある、そして、自然にふれて育った子供には思いやり、やる気、人間関係能力などが高い高校生が多いとの調査結果が得られている」そうです。まさに今社会で求められていることです。是非、この制度をもっと多くの人に活用してほしいと願います。

■ビオトープ・サロン マスメディアからの話題

去る3月26日の徳島新聞に「交雑種の飼育・輸入禁止」の見出しで、環境省が今国会に外来生物法改正案を提出との記事が目にとまりました。被害者は動物たちということをお忘れしなければなりませんね。(編集局)

【外来生物法-環境省改正案提出】

環境省は25日、生態系に重大な被害を与える恐れがあるアカゲザルなど特定外来生物と在来種の間生まれた「交雑種」の飼育や輸入を原則禁止する方針を固めた。対象として外来生物同士から生まれるケースも想定。これまでは特定外来生物に限って飼育や輸入を規制していた。今国会に外来生物法改正案を提出し、所有者が分からない山林などで駆除する手続きも簡素化する。

千葉・房総半島で、アジアに生息するアカゲザルと日本の固有種ニホンザルが交雑し、固有種の独自性を脅かす事態が発生。特定外来生物の魚であるバス類同士を交配、釣り堀用に輸入している「サンシャインバス」の湖沼への流出も懸念されており、中央環境審議会で規制強化を求める声が上がっていた。

改正案では、規制対象に「特定外来生物が交雑して生じた生物」を追加。特定外来生物と同様、学術研究、展示、教育といった目的を除いて、飼育や輸入、運搬を原則禁止する。違反した場合は、個人は3年以下の懲役または300万円以下の罰金、法人は1億円以下の罰金を科す。

現行法では、外来生物駆除のため山林などに立ち入る際は所有者に通知し、意見を聞く必要がある。だが、所有者が不明で駆除が進まない事例が増加していることから、通知内容を市町村の庁舎で掲示するとともに官報に告示し、一定期間が経過すれば、通知したとみなす規定を設ける。

このほか通関などで輸入品を検査する際に、特定外来生物のアリや貝などの付着、混入が判明した場合、所有者に消毒や廃棄を命じることが出来る規定も盛り込む。(中国新聞 HP より転載)



アカゲザルの交雑種(上の2匹)とニホンザル(日本霊長類学会提供) 共同通信HPより転載

(編集局：同様にタイワンザルとの交雑問題は、和歌山県での全頭駆除の計画が決定となった段階で、各界で賛否両論が紛糾したが、2002年から計画的な対策により効果が上がっているとの報告がある。)

主な特定外来生物

哺乳類	アカゲザル アライグマ	
はちゅう 爬虫類	カミツキガメ タイワンハブ	
魚類	ブラックバス (オクチバス、コクチバス) ホワイトバス	アライグマ
昆虫	アルゼンチンアリ	
クモ	セアカゴケグモ	
植物	ミズヒマワリ ボタンウキクサ	カミツキガメ

徳島新聞 2013. 03. 26 より転載

■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう!

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより
無断転載禁止：本紙は公益財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。(編集局)

【施工部門の択一問題：正答と解説は次号で紹介】

問053： 河川と周辺環境との関連性に関する次の記述のうち、謝っているものはどれか選びなさい。

1. 崖線や山林が水辺と接している場所で、河道法線を変更したり、管理用道路を設けたりすると、生態系の分断につながる。
2. 河畔林・溪畔林は哺乳類や鳥類、昆虫のコリドーとしての働きを有している。
3. 河川は流水性の生態系であるが、周辺の水田・湿地は止水性の生態系なので、つなげることは好ましくない。
4. 改修により、支川や用水路との落差が生じる場合には、魚道などにより連続性を確保する必要がある。
5. 陸域、水域ともに上流から下流まで連続した多様な空間を形成する必要がある。

■前号052の正答「1」

①ビオトープの保全・復元を考えて農村の整備事業を計画する場合、草地や藪は害虫の発生源になるとの理由で敬遠されがちになる。しかし、草地や藪は、農村地域の生態系の重要な基盤を成す。②多様な環境となるように水路を整備しようと計画したが、自生している樹木を伐採する必要が出たので、水路を蛇行させる。このように、計画地に既存する自然的要素は保全する。③水際に水生植物を繁茂させるために着床率の高い新しい品種を導入しようという話があったが、地域の動植物に影響する可能性があるため導入を取りやめた。このように、園芸種や人工的な改良種は採用しない。④護岸に大きな石を使用しようと思っていたが、大きな石が出土しなかったため、当該地に産する材料のみを使用することとした。このように、地域の材料を用いることを原則とする。⑤整地の際に出土した石や伐採時に生じる樹木などは、整備工事で使用することとした。このように、現場の発生材はその土地の環境を支えていた要素であることから、優先的に再利用することを原則とする。

※2級はどなたでも受験でき、四国の受験会場は「徳島大学工学部」です。自然環境の保全に関わる方には、是非とも取得していただきたい資格です。詳しくは、<http://www.ecosys.or.jp/> (公益財団法人 日本生態系協会HP)

■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の活動やお仕事、日常生活を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。 ふるってご参加ください！ 編集局
【E-mail : kanv@nifty.com URL : <http://biotopetokushima.yu-yake.com>】